

おのきた

尾北校長室から

第17号



「いのち」 ～ 透明な糸

何か自分の思うように進まないことがあって、一人で悩んでいる人はいませんか？ 今回は、特にそういう人に声をかけたいと思います。

ある本を読んで、自分の考えが少し変わった経験をしました。「**Oに近い△を生きる**」(鎌田 實^{みのる}, ポプラ新書, 2013)という本を読んだ時のことです。その本には、「唯一の正解」を求めていくのではなく、**幾つもある「別解」の中から「Oに近い△を見つけていけよ**い」ということが書かれてありました。それまでは「Oでないにだめだ」と何となく思っていて、うまくいかない不安や怒り、不満を抱えている自分に気づかされたことを覚えています。以来、考え方をちょっと変えれば、生き方もずいぶん変わって楽にもなるものだ、と実感するようになりました。

思い通りにならないことは誰にでもあります。現実にはむしろその方が圧倒的に多い。「△を見つけていく」ということは、現実の世界を生きる知恵であり、相手にも「O」だけを求めないというある種の優しさであり、人と繋がって生きていくことの大切な基本動作であると思います。

皆さんには、夢をもち、それを全力で追いかけるという姿勢は大切にしてもらいたい。その上でさらに大切にしてほしいのは、現実の世界を生きる者として、**夢を複数もってそれらに順番を付けておく**という考え方です。唯一の正解というものはないし、一人で生きていくということもできません。常に誰かと繋がりながら「Oに近い△を見つける」という姿勢がよいのではないかと思います。

生きるということについて、吉野弘(1926~2014)という人の『**いのち**』という詩を紹介します。完成までに数回書き直されることになるこの詩の、最初の頃のものであります。これを読む時、いつも私は、人は**透明な糸**で繋がっていることを思います。そして、自分は周囲の人に迷惑をかけたり、またかけられたりしながら、それでも一緒にやってきたような気がしてきます。

皆さんの中には、すぐには理解できない人もいるかもしれませんが、そういった人ももう少し時が積み重なると、きっと実感できると思います。私たちは、気が付かなくとも、いつもどこか誰かを支え、また、深く静かに誰かに支えられているのではないのでしょうか？

いのち
「生命は」

生命は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も めしべとおしべが揃っているだけでは不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする いた
生命はすべて その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

私は 今日 どこかの花のための
虹(あじ)だったかもしれない
そして明日は
誰かが私という花のための
虹であるかもしれない

(詩画集『風が吹くと』1977 所収)



普段はあまり意識しませんが、生命というものは確かに繋がっています。そしてこれからもずっと繋がっていくものです。自分を大切にするということが疑問に思われる一瞬があるとしたら、その時には、私たちにそっと教えてください。一緒に考えましょう。⇒ライフガイダンスルーム(本館3F)